

IV-4 中部

インバウンド誘客に向けて
国から市町村レベルまで幅広い取組みが行われた
宿泊拠点整備について官民共に動きがみられた

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、16年1～12月の中部地方の延べ宿泊者数は8,710万人泊となり、前年比4.8%減となった(図IV-4-1)。昨年の同8.9%増から一転して減少となったが、対14年比では3.7%増、5年前の対11年比では11.1%増となっている。

県別にみると、石川県と愛知県がともに同0.4%減と微減であった一方、富山県が同14.6%減、福井県が同10.9%減、長野県が同7.3%減と減少幅が大きく、北陸3県では明暗が分かれた。

外国人延べ宿泊者数は736万人泊で、前年比3.2%増となった(図IV-4-2)。昨年の同68.6%増をはじめ、ここ数年、2桁の伸びが続いてきたが、その大きな伸びは一服した。

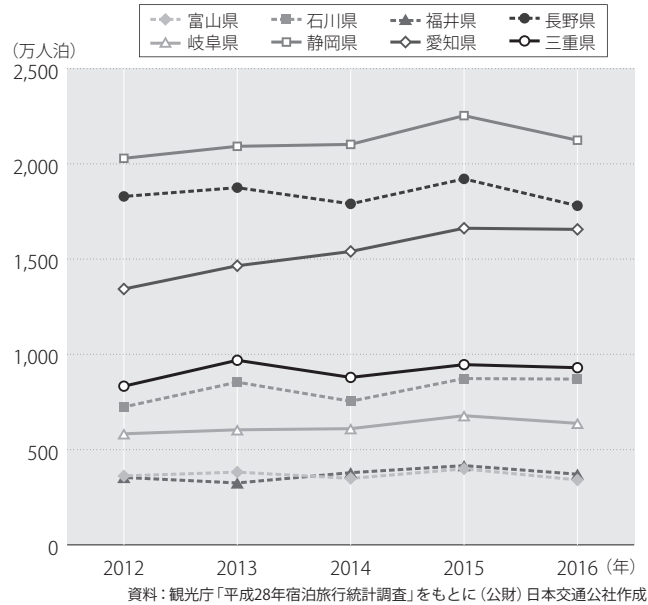
県別にみると、石川県が前年比20.5%増、長野県が同19.8%増と伸びた一方で、三重県が同10.2%減となった。

外国人宿泊者の国籍別にみると、北陸3県と長野県は、台湾が約35%を占めて最も多く、次いで香港又は中国が続いて、この3カ国で各県全体の6～7割を占める。東海3県(静岡県・愛知県・三重県)は、中国の割合が非常に高く、特に静岡県は69.6%を占めている(愛知県は53.0%、三重県は44.5%)。16年の我が国への来訪者数が第3位である韓国は、中部地方においてはそれほど高いシェアを占めておらず、比較的多いのは三重県の14.3%(県内順位3位)、富山県の9.9%(同4位)である。長野県においてはオーストラリアが9.3%(同4位)を占めている点が特徴的である。

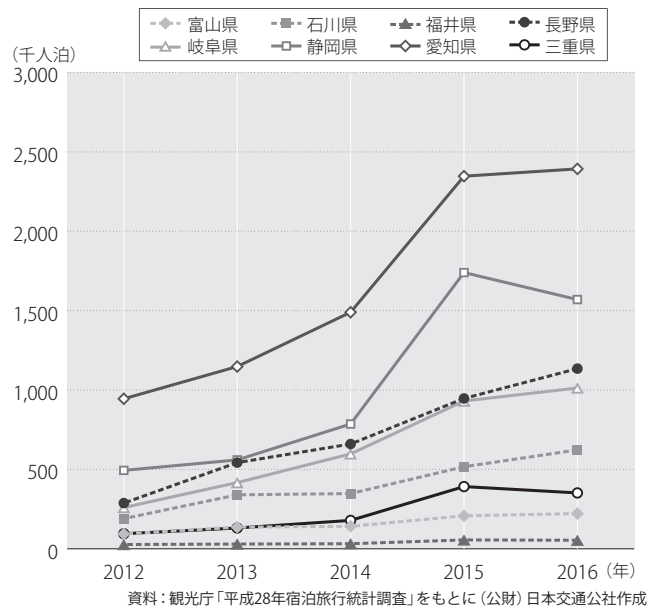
トリップアドバイザーの「インバウンドトレンド調査」(16年6月)によると、同社の海外ユーザーの日本のページへのアクセス状況を分析すると、15年3月～16年2月の1年間で前年に比べて外国人の関心が高まった都道府県のトップは石川県であった(セッション数増加率が前年比59%増)。上位10県に富山県(3位、同47%増)、岐阜県(6位、同40%増)の中部地方3県が入った。同調査では、外国人旅行者の口コミからこれらの県の人気観光地・観光施設(タイプと施設名)を算出しており、表IV-4-1の結果となった。

16年8月に公開され、世界各国で大ヒットとなった長編アニメ映画『君の名は。』でいくつかの場面のモチーフとなった岐阜県飛騨市は、この映画のファンが中国をはじめ台湾、香港からも大勢訪れた。JR高山本線飛騨古川駅では映画と同じアングルで風景を眺められるスポットが紹介され、飛騨市図書館等では『君の名は。』展が開催された。

図IV-4-1 延べ宿泊者数の推移(中部)



図IV-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中部)



表IV-4-1 外国人旅行者の口コミ評価(中部地方について)

都道府県 トップ10の順位 人気の観光地・ 観光施設の順位	1位	3位	6位
	石川県	富山県	岐阜県
1位	兼六園	立山黒部アルペンルート	白川郷合掌造り集落
2位	妙立寺(忍者寺)	相倉合掌造り集落	中山道馬籠
3位	近江町市場	黒部峡谷	高山昭和館
検索数の多い観光施設タイプ	文化 自然・アウトドア	名所・史跡	文化

資料：トリップアドバイザーのプレスリリース資料をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主要な動き

① 地方・都道府県レベル

●G7伊勢志摩サミットの開催(三重県伊勢市・志摩市)

16年5月26日、27日、三重県伊勢志摩地方で、第42回主要国首脳会議(G7伊勢志摩サミット)が開催された。昨今のテロの多発を受けて、とりわけ「安全第一」が重視されたが、「三位一体の観光振興」という方針の下、国と開催地域の関係者が連携して受入れを進めたことも特徴である。

具体的には、国は「昇龍道プロジェクト推進協議会」を通じて、特にサミット後のレガシー(遺産)の活かし方を検討し、中部経済連合会が中心となった「伊勢志摩サミット東海会議」は、中部国際空港等でのインフォメーションブースの設置や国際メディアセンターでの展示、記念品の製作等、中部地方の観光の魅力を幅広く発信した。三重県が中心となった「伊勢志摩サミット三重県民会議」は、県・市町村の職員等と民間人の最大100人から成る推進組織であり、「開催支援」「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」という4つの柱を立てて各種取組みを行った。

サミット直前や開催中は警備や関係者の受入れのため、宿泊施設や交通機関、商店などの一般人の利用が制限され、サミット開催効果の波及には地域や業種に偏りもみられたが、三重県はサミットの宣伝効果が3,098億円、直接的な経済効果が1,070億円、合計4,168億円の波及効果があったと試算した。

●G7長野県・軽井沢交通大臣会合の開催(長野県軽井沢町)

16年9月23日～25日、軽井沢町にて、G7伊勢志摩サミットの関係閣僚会合であるG7長野県・軽井沢交通大臣会合が開催された。長野県にとってはこれまでにないハイレベルな国際会議の開催であったが、夕食会では長野県産のワインや旬の食材による料理、伝統芸能で歓迎し、イタリア政府団とドイツ政府団へはエクスカッションを提供するなど、長野県の魅力を大いにアピールする機会となった。

●昇龍道プロジェクトの各種取組み

中部運輸局と北陸信越運輸局、中央日本総合観光機構が中部北陸9県の自治体や観光関係団体等と取り組む「昇龍道プロジェクト」は、アジア地域で開催される旅行博への出展や各国の旅行会社・航空会社担当者の招聘、ベトナムへのミッション団の派遣等、各種取組みを進めた。

例えば、G7伊勢志摩サミット開催を好機として「お酒と食のおいしい組み合わせ」等各地の特産品に関する詳細情報の発信や、鉄道や高速バスの周遊きっぷの開発、愛知県・岐阜県・三重県を対象エリアとするスタンプラリーを実施するなど、特に昇龍道への来訪者の多くを占める個人旅行者への対応を推進した。

●インバウンドに関する国の取組み～「訪日外国人旅行者の受入に向けた地方ブロック別連絡会」の設置

訪日外国人旅行者数2,000万人の達成に向けて、国土交通省は各ブロックの地方運輸局、地方整備局、地方航空局や都道

府県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者の受入に向けた地方ブロック別連絡会」を設置した(15年3月に設置。16年4月から当会議名へ変更)。

16年度の中部ブロックの成果としては、中部国際空港へのアクセス向上に向けて、空港と名古屋市内を結ぶリムジンバスを1日6往復増便して14便とし、16年11月は1か月間で4,636人増加した。

北陸信越ブロックの成果としては、医療電話通訳サービスの実施や医療通訳士の派遣を行った(16年12月～17年3月)。長野県はスキーや雪を楽しむ外国人旅行者が多く、それに起因するケガや事故が多いことから、緊急時のコミュニケーションサービスを提供した。

●インバウンドに関する都道府県の取組み

東海3県(愛知・静岡・岐阜)と長野県に比べて、外国人宿泊者数が少ない北陸3県(石川・富山・福井)と三重県において、より積極的な誘致活動が行われた。

○ブランドコンセプトの設定(福井県)

福井県は、インバウンド誘客のために、福井のライフスタイルの背景にある「ZEN(禅)」を前面に打ち出したブランド「ZEN, Alive. Fukui ～身も心も満たされる、“ZEN”が息づく福井～」を設定した。また、SNSを通じて福井県の産業や観光情報の発信を担う「Fukui レポーターズ」を募集し、県内在住の外国人20人に委嘱した。

○トリップアドバイザーとの連携(三重県)

三重県は、G7伊勢志摩サミット開催を好機として、外国人への三重県の認知度と旅行満足度の向上を目的として、15年度から旅行口コミサイト、トリップアドバイザーと連携して「三重県×トリップアドバイザー 外国人おもてなしプロジェクト」を開始し、口コミ情報を活用した新たな観光情報サイト「Mie Travel Guide」を開設した。これは投稿された口コミが自動的に外国語に翻訳され、外国人旅行者へ現地情報として発信されるという仕組みである。同社としては、都道府県と連携した全国初の大規模プロジェクトとなる。

2年目となる16年度は口コミを増やすために、外国人旅行者にトリップアドバイザーへの口コミ投稿を促すカードの制作・配布や、事業者の店舗掲示用の「REVIEW US」カードの制作、三重県民へ県内の魅力を口コミ投稿するよう呼びかけを行った。

○外国人旅行者受入れ人材の育成(富山県)

富山県が主催する人材育成プログラム「とやま観光未来創造塾」には、外国人旅行者の受入れを担う人材の育成を目的とする「グローバルコース」が設定されている(この他に「観光地域づくり入門コース」「観光ガイドコース」「観光魅力アップコース」「観光地域づくりマネジメントコース」、全5コース設定)。15年にこのコースで学んだ女性が、16年4月、富山市八尾町に宿泊施設とカフェを併設した「越中八尾ベース OYATSU(おやつ)」をオープンした。この塾は、県内で着地型旅行商品の企画・構成を行う

起業意欲を持ち、英語で日常会話ができる等の入塾条件が設けられており、実際に外国人旅行者へ旅行商品を販売する企業への約半年間の派遣を含むなど実践的な研修内容となっている。

●**地元住民の視点で「福井しあわせの巡遊コース」を選定（福井県）**

民間の調査機関の調べで、住民の幸福度が全国で最も高いとされる福井県は、幸せを思い浮かべる県内の場所やモノ、エピソードを公募し、県民投票や専門家等による審査を経て「福井しあわせセレクション」（50件）を決定した（16年4月、内訳は「幸せの聖地」31か所、「幸せの逸品」13件、「幸せエピソード」6作品）。

この中の「幸せの聖地」について、個々に紹介するのではなくストーリーを持たせて魅力を発信するために、「縁結び」をテーマに4コース、「幸運」「ファミリー」「安産祈願」を各1コース、合計7コースを「福井しあわせの巡遊コース」として選定し、県のホームページで公開した（17年4月）。コースの選定にあたっては、県民やメディアが参加するワークショップが実施された。地域外から消費者や旅行会社の社員等を募ってモニターツアーを実施することは多いが、地元住民の視点でコースの検討が行われ、選定後に住民自身に周遊を呼び掛けるケースは珍しい。県は今後、「セレクション」や「巡遊コース」を活用して、県内外に「幸福度日本一」を発信するとともに、県民自身が地元での暮らしに幸せを実感できるような政策につなげていくとしている。

②**広域・市区町村レベル**

●**生物圏保存地域「エコパーク」の範囲拡張～白山ユネスコエコパーク（富山・石川・福井・岐阜県）**

国連教育科学文化機関（ユネスコ）は16年3月、エコパークに登録されている「白山ユネスコエコパーク」について、これまでは一部登録外であった富山県南砺市の平・上平地域全域へエコパークを拡張することを決定した。これにより世界文化遺産の五箇山合掌造り集落も登録エリアに含まれることになり、地元行政は自然と文化双方の魅力を発信することで、来訪者の増加や移住促進につなげたいとしている。

●**インバウンドに関する広域的な取組み～福井県・石川県の市町の連携**

福井県の勝山市・あわら市・坂井市・永平寺町と石川県加賀市の5市町と、各市町の観光関連団体は、インバウンド誘客のために、観光資源の磨き上げや広域周遊ルートの設定、共同プロモーション活動を行う「越前加賀インバウンド推進機構」を設立した（16年5月）。これまでは「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」として宗教文化資源に関する広域観光を推進してきたが、それに限らずより幅広い観光資源を活かして、インバ

ウンド誘客にも積極的に取り組むとしている。

●**地方銀行と連携した温泉地活性化の取組み（長野県山ノ内町）**

山ノ内町は、湯田中渋温泉郷や志賀高原等の観光資源を有し、近年は温泉に浸かる野生の猿が多く外国人旅行者から人気を集めている。「KAWAII・スノーモンキー」を世界へ発信し、訪れた外国人旅行者の滞在拠点づくりを進めるために、地元の地方銀行八十二銀行と地域経済活性化支援機構（REVIC）が地元の若手有志とともに、まちづくり会社「株式会社WAKUWAKUやまのうち」を設立、地域資源を活かした商品開発や、空き店舗や廃業した旅館のリノベーションによる有効活用、飲食店の運営、次世代経営者の育成、情報発信等に取り組んでいる。

●**地元有志を支援して農家民宿を整備（石川県輪島市）**

輪島市三井町は、北陸新幹線開業後の国内外からの来訪者の増加に対応するために、豊かな里山景観と郷土料理等の地域文化を活かした地域活性化策として、輪島市内初の農家民宿「弥次（やじ）」を整備した（17年2月開業）。以前から東京農業大学とともに地域づくりを進めてきた中で、農家民宿の開業に意欲的な地元住民が始めたもので、市が採用した地域おこし協力隊とともに、郷土料理づくりや木工体験など里山での暮らしを体験できるプログラムを提供していくとしている。

●**ラグビーW杯開催に向けてホームステイの試行（静岡県袋井市）**

19年のラグビーワールドカップ（W杯）日本大会の会場の一つとなる袋井市では、観戦のために訪れる外国人を対象にホームステイを推進するために試行事業を行った。16年8月に12か国15人を招聘し、座禅や写経、精進料理等を体験してもらい、交流プログラムの開発に取り組んだ。

宿泊施設の少ない袋井市は、03年の静岡国体の際に選手や関係者をホームステイで受け入れた経験がある。現在、国が推進している民泊のような営利目的のものではなく、交流プログラムを提供するなど国際交流を主目的として行政主導で進めていく予定である。

●**金沢21世紀美術館の年間入場者数が過去最高に**

15年3月の北陸新幹線開業の効果もあり、15年度の入場者数（237万2,821人、前年比34.7%増）が全国1位となった金沢21世紀美術館は、16年度はさらに入場者数を伸ばして255万4,157人（同7.6%増）となり、過去最高を記録した。

（岩崎比奈子）